

2018年4月 キューバ医療事情

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

【キューバ医療事情】

4月1日【Diario de Cuba】

“ラス・トゥナス県で緊急事態：子供の患者が倍増”

ラス・トゥナスでは緊急に治療を受けた子供の数が倍増した。地方の小児病院の医療従事者には多大な負担となっている。

ラス・トゥナスのガード・コープ小児病院で、毎日200人の患者が受診。以前と比較するとほぼ倍増している。主な原因は急性呼吸器感染症である。インフルエンザや細菌性扁桃炎、肺炎が際だって多い。加えてジカウイルス症やデング熱疑いの患者が毎日5-6人入院している。県内にはライノウイルスやアデノウイルスやRSウイルスが蔓延している。

1歳未満の子供は、合併症を引き起こしやすい。また下痢も問題となっている。先ほどの病院では24時間で20人以上の下痢の患者を治療している。

4月6日【CUBANET】

“キューバのもう一つの悪化の指標：肥満”

キューバ国民の43%は太りすぎや肥満に悩んでいる。2011年以降のデータによるとリスクの高い集団は青少年。彼らの身体や知的能力に影響を与える。肥満が原因のいじめによる精神的なダメージも受ける。

専門家は穀物、新鮮なチーズ、白身の肉、野菜、果物の消費を増やし、食事を修正する必要があると警告している。ハリケーン・イルマの通過後、グアバやバナナといったどの季節でも安かったものが、高価になった。キューバ人の青少年は、ジャンクフードでお腹を満たす癖がついている。

4月9日【CUBANET】

“交通事故でまた死者：ビジャ・クララで車が横転”

日曜日の午後に交通事故がランチュエロからシエンフエゴスへ行く道で発生した。事故を起こした車は、他の車を追い抜き抜こうとして横転し、2人が死亡し、4人が負傷した。

負傷した4人のうち2人は未成年だが、状態は安定している。負傷した成人1人は重傷である。今年に入り、交通事故が増加している。

4月11日【Diario Las Americas】

“キューバで100人以上の妊婦がジカウイルス症に罹患”

キューバの医療機関が初めてジカウイルスが妊婦に影響を与えたことを公に認めた。

ラス・トゥナス県で 5 人の妊婦が、ジカウイルスの感染により胎児に重大な問題が確認され、彼女達は中絶をした。最近 100 人以上の妊婦がジカウイルス症と診断された。

ラス・トゥナス県でジカウイルスに罹患した母から生まれた子供約 20 人のうち 2 人は問題が認められた。1 人は既に再吸収されていた網膜出血で、もう 1 人は大脳皮質の石灰化が認められた。ジカウイルスに罹患した母親から生まれた全ての子供達は 5 年間の経過観察が必要である。出産前に明らかな異常が認められなくても、将来異常が出現する危険性は存在することを家族は認識しなくてはならない。

昨年 5 月にキューバで 1847 人のジカウイルス感染症患者が確認された。

4 月 14 日【CUBADEBATE】

“キューバとベトナムのワクチン製造業者の関係強化”

キューバのワクチンのフィンレイ研究所とベトナムのカウンターパートであるバビオテックは彼らの協力関係の強化していく意向の覚書を締結した。

4 月 16 日【CIBERCUBA】

“カナダ政府はキューバにいる外交官の家族を引き上げる”

カナダ政府は在キューバカナダ大使館から外交官家族を引き上げる。なぜなら依然として異常な健康状態の原因が不明であり、新たなタイプの脳障害を指摘した専門家からの情報が懸念されたためである。

カナダ大使館の職員 27 人中 10 人にめまいや頭痛、嘔気といった症状が認められ、彼らの家族がまず医学検査を施行された。

4 月 16 日【CUBANET】

“キューバは 5 人に 1 人が 60 歳以上”

2017 年末の時点でキューバは 60 歳以上の人口が 20.1%を占め、ラテン・アメリカの中でも最も高齢化が進んだ国の 1 つである。

この新たなデータによるとキューバには 220 万人の高齢者が存在し、高齢化が進んでいることが確認された。これはキューバ社会と国の医療システムにおいて大きな課題の 1 つになっている。2020 年には 60 歳以上の高齢者が 21.5%、2030 年には 30.3%になると予測されている。主な原因は出生率の低下と平均寿命の増加と言われている。

キューバにおける 100 歳以上の人数は 2526 人であり、ほとんどが女性である。

4 月 23 日【Granma】

“キューバは国際医療コンベンションを開催”

ハバナ国際会議場で 4 月 23 日～27 日にかけて第 3 回キューバ国際医療コンベンション 2018 が開催され、同時にパレスポ会場で第 14 回医療展示会が開催される。約 80 ヶ国から 150

人を越える著名人、2000人以上の代表者が参加する。

4月24日【CIBERCUBA】

“グアンタナモで水痘が流行”

ここ数週間に渡り、キューバ東部のグアンタナモ住民は水痘の流行にさらされている。グアンタナモは気温が高く、公衆衛生設備が欠如しており、地方政府は水痘を撲滅する対策をほとんどしておらず、同様に予防方法の通知もほとんどしていない。

4月24日【CUBADEBATE】

“モリंगा栄養補助食品がキューバで商品化”

サンティアゴ・デ・クーバの医薬品会社がハバナで開催される Salud Para Todos 2018 でモリंगाの栄養補助食品を発表予定。このモリंगाは、栄養学的に非常にすぐれていることに加えて、抗菌作用、抗炎症作用、癌予防や血中コレステロール降下作用がある。モリंगाの葉を錠剤にして、1瓶180錠入りで販売。

4月24日【Granma】

“ディアス・カネル議長がWHOとPAHO事務局長を迎える”

4月23日午後、国際医療コンベンション2018に参加するWHO事務局長とPAHO事務局長両名をディアス・カネル議長は会談に迎えた。議長はWHOやPAHOとの関係を発展させ続けることを表明した。事務局長達は本日始まった医療イベントを賞賛し、ディアス・カネル議長の議長就任のお祝いを述べた。

4月28日【CIBERCUBA】

“糖尿病性下肢潰瘍に対するキューバの新薬”

糖尿病性下肢潰瘍の治療に効果のある Heberprot-P の成功後、キューバは糖尿病性下肢潰瘍の患者の感染に対する薬の開発を開始した。DemoFural は幅広い抗菌作用を持ち、ビジャ・クララのアルナルド・ミラン・カストロ臨床外科大学病院で行われた臨床第2相試験では大きな成果をあげた。臨床試験は2017年より開始され、糖尿病性下肢潰瘍のある患者30人に対して7日間に渡り投与された。目的は Heberprot-P を投与前に感染を排除するためである。2007年以降、DemoFural は既に抗真菌作用は確認されている。今回の試験で抗菌作用の能力を証明する。現在、火傷の患者にも適応が期待されている。

4月28日【CUBADEBATE】

“チリの薬局協会で低価格のキューバの医薬品を販売”

チリの薬局協会は、チリで低価格医薬品を販売するための医薬品（アルツハイマー病や数種類の癌の薬）の輸入をキューバと契約したことを発表した。